

CODE 海外災害援助市民センター
2008 年度事業報告
2008. 4. 1～2009. 3. 31

CODE 海外災害援助市民センター
2009. 6. 20 総会資料

◆事業報告一覧

事業	事業名	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲及び予定人数	支出額 (千円)
海外災害地への救援活動事業	救援プロジェクト	随 時	アフガニスタン	対象地域住民	1,224
		随 時	アルジェリア	対象地域児童	0
		随 時	イラン・バム	対象地域住民	27
		随 時	スリランカ	対象地域住民	368
		随 時	パキスタン	対象地域住民	0
		随 時	バングラディシュ	対象地域住民	0
		随 時	インドネシア・ジャワ	対象地域住民	74
		随 時	ミャンマー	対象地域住民	3,068
人材育成事業	NGO ことはじめ	実施せず	—	—	0
	HAT 国際機関訪問	実施せず	—	—	0
	スキルアップ研修	随 時	全 国	スタッフ	0
	ボランティアの日	年 3 回	CODE 事務所	—	0
災害関連情報の収集及び発信事業	災 害 情 報 サイト (CODE World Voice) の運営	随 時	全 国	不特定多数 翻訳ボランティア 10 名	7
国内外のネットワーク構築事業	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席	随 時	全 国	—	32
	神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」	2007 年 4 月～7 月	神戸学院大学ポート アイランドキャンパス	学生 30 人	0
	留学生セミナー	5 日間 (2008 年 8 月)	神戸市内	留学生 8 人	129
	草の根協力事業(地域提案型)	2008 年 7 月	山梨県 兵庫県内	アフガニスタン 7 人 講師・スタッフ 約 10 人	3,828
	コープこうべハート基金運営委員会等で報告	2008 年 6 月、8 月、 2009 年 2 月、3 月	神戸市内	基金運営委員 20 名	0
	「ほっとけない世界のまじしさ」キャンペーン	随 時	全 国	—	2

「市民による災害救援」に関する調査・研究事業	CODE 寺子屋学習会	実施せず	—	—	0
「市民による災害救援」に関する啓発及び広報活動事業	賛助会員数の増加	随時	全国	不特定多数	0
	講師派遣と報告会	随時	全国	不特定多数	55
	機関誌とインターネット	機関誌は2回発行、インターネット随時	CODE 事務所	機関紙 700 部	240
	冊子・グッズの発行・販売	随時	全国	不特定多数	76
その他本会の目的達成の為に必要な事業	CODE エイド準備	実施せず	—	—	0
	スタッフ奨学金制度	随時	全国	スタッフ	0
	読売国際協力賞授賞式	2008 年 11 月 5 日	東京	約 300 人	123

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名	「ジャワ島中部地震救援プロジェクト ウォータープロジェクト→通称“呼び水プロジェクト”
実施日時	随時（2006年5月27日から継続事業、同プロジェクトは2008年4月1日から継続）
実施場所	インドネシア・中部ジャワ Yogyakarta 省 Gunung Kidul 地区 Giri Sakar 村 （Giri Sakar 村の住宅被害は全壊4軒、半壊11軒）
受益対象者の範囲及び予定人数	Giri Sakar 村住民30世帯132名およびその周辺のRT
実施内容	<p>2006年のジャワ地震後にCODEの支援プロジェクトとして行ったゴトンロヨンによる住宅再建は同年10月に終了した。その後この住宅再建のパートナーとして現地デユタ・ワカナ・キリスト教大学教授エコ・プラワットさんの仲介により、同じジャワ地震被災地のグヌン・キドウル（Gunung Kidul）県ギリサカリ（Giri Sekar）村の水問題に関する支援の提案があり2008年1月度理事会でウォータープロジェクトとして支援を決定、現地での活動が始まる。その後、2008年11月度理事会において、“呼び水プロジェクト”として持続可能な水の確保を目指して、中期的に取り組むことになった。アフガニスタン支援プロジェクトに続いて、CODEはこの地においてこれまでの復興支援から持続可能な暮らし支援プロジェクトへの移行に挑む。CODEの支援によって、ウォータープロジェクトの第一段階として本管から支管を敷設し、一度その水を貯水タンクに貯め、使う。一方これまでも乾季に水が枯渇していた現状を解消するために、雨期の雨水を貯蓄するタンクを造り、通年としての水の確保に務めてきた。しかし、それでも乾季を通して賄えるだけの水が確保出来ないため、他の方法に挑みながら模索を始めた。最初のCODEの支援で弾みがついた同村は、村の若者を中心に少しの資金をプールし、マイクロクレジットシステムを導入してアヒルやナマズの養殖事業にチャレンジし、自立した村の地域経済の確立に向けて活動を開始した。他の方法とは、乾燥地農業などの成功事例を参考にしながら、持続可能な農業に取り組むことによって、永続的に水を確保する方法である。CODEは、こうして被災した村の住民が主体となって、持続可能な水確保を目指す活動を支援しており、これを“呼び水プロジェクト”と命名した。今のところこの“呼び水プロジェクト”に関連して、現地からは支援のための資金援助を提案されていない。なお、2008年9月、CODEとの協働事業としても位置づけられている（独？）神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の浅野壽夫教授のゼミが、フィールド学習の対象地に選ばれ、同被災地を訪れ、報告書もつくられた。</p>

事業名（新）	バングラディッシュ・サイクロン「シドル」救援プロジェクト
実施日時	2007年11月20日から
実施場所	水害被災地域 Bagerhat 地域にある Nisanbaria
受益対象者の範囲及び予定人数	入居者 35 人（8 歳から 15 歳の子ども）、教師 2 人
実施内容	<p>CODE の元スタッフ齊藤容子の協力で、以前からつながりのあるバングラデシュ防災センターのセンター長サイドウル・ラーマンの提案を受け、サイクロン被害のあった孤児院の補修再建を決定。同センター副代表が、2009年1月19日に開催された「UNCRD 地震にまけない国際シンポジウム 2009」に参加されたときに、プロジェクト支援の詳細を確認した。2008年度事業計画では、2008年度中に一度は訪問する予定をたてていたが、齊藤さんのヒアリングとそれを受けた形で丁寧に情報提供して下さったおかげで、スムーズにプロジェクトが確定したので行くに及ばなかった。</p> <p><支援活動の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 孤児院 Gulishakhali と Lillah ・ トタン屋根のある建物の中に孤児院を作る ・ 清潔なトイレを2つ、キッチンを作る ・ 太陽エネルギー活用の装置を導入する ・ 服飾、大工、石工などの訓練コースを提供する ・ レンタルショップの設立など所得創出活動を始める

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト －JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）－
実施日時	2002年7月から継続事業、同 JICA 事業は 2007 年から開始の 3 年間事業
実施場所	アフガニスタン カブール州ミールバチャコット地域
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地区ババカシュガルの 4 つの村のぶどう家族 500 所帯とその地域住民（全世帯数 1560 世帯）
実施内容	<p>CODE のアフガニスタンへの関わりは、2001 年「9.11」後である。初めて翌 2002 年アフガニスタン入りし、以来支援活動を続けてきた。支援プロジェクトは「ぶどう畑再建」。さて、アフガニスタンはカルザイ政権の不安定さから招いた治安の悪化を招いている。2009 年は二度目の大統領選挙が行われる。2008 年は日本の医療支援 NGO ペシャワール会の日本人スタッフが殺されたことから、外務省は関係 NGO に「遠隔操作」を提案し、まだ現地に滞在していた NGO も随時撤退した。そんな中で CODE は、2003 年より本格的な支援を続けている「ぶどう畑再建支援プロジェクト」をサポートする形で、2007 年より JICA 草の根技術協力事業の決定を頂き、兵庫県佐用郡佐用町と CODE との 3 者の連携事業として、農業と防災研修を行ってきた。同事業は 3 年間事業で 2008 年は 2 年目となった。一年目のぶどう農家実施研修は佐用町のみであったが、2 年次（2008 年）では日本でもぶどう栽培で有数の山梨県を訪問し、40 年間にわたって有機農業を継続している農家で研修することができ、一年次に得られなかったノウハウを学ぶことが出来た。詳細は、関係機関ネットワーク事業を参照。</p>

事業名	アルジェリア地震救援プロジェクト
実施日時	2003年5月からの継続事業
実施場所	アルジェリア
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	防災教育をアルジェリアで展開している神戸市教育委員会のスタッフに相談するも、適切な情報が得られなかった。次年度に申し送りし、引き続き情報収集を行うこととする。

事業名	イラン南東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年12月から継続事業）
実施場所	イラン ケルマン州バム
受益対象者の範囲及び予定人数	・対象地域に住んでいる約100人の子どもと同地域に住む女性など若干名
実施内容	CODEが支援のため建設したコミュニティセンターは、現地の被災者主体の運営・管理に移行した。SNSなどからの報告を参考にしながら現地の活動を見守ってきた。2009年1月19日 UNCRD 兵庫主催のシンポジウムに来神されたSNSのスタッフによる最新情報では、CODEが支援したコミュニティセンターは順調に運営されており、中心になって管理・運営スタッフになっている被災者である女性も活躍しているとのこと。現地からの提案に期待したい。 * SNSとは、神奈川県に本部を置くNGOで、兵庫県が行うイラン地震後の支援プロジェクトを担ったNGO。

事業名	スマトラ沖地震津波災害救援プロジェクト
実施日時	随時（2004年12月から継続事業）
実施場所	スリランカ
受益対象者の範囲及び予定人数	スリランカ：防災教育支援：タララ村の子ども約50人 幼稚園・保育園再建支援：約240名（予定） （6つの地域で幼稚園を建設） 漁業組合支援：約300名（2つの地域で実施） 絵本が完成すれば、その読者すべて。
実施内容	同津波災害後、同国で実施してきた幼稚園・保育園再建支援事業で唯一1件の施設建設が大幅に遅れていたが、やっと2008年12月に完成した。これを持って津波後のスリランカ支援事業はすべて終了。

事業名	パキスタン北東部地震救援プロジェクト －被災女性の生計向上支援職業訓練センター支援－
実施日時	随時（2005年10月8日から継続事業）
実施場所	パキスタン・イスラム共和国アザド・ジャム・カシミール州（AJK）ムザファラバード市街地ワード13地区
受益対象者の範囲及び予定人数	上記に住む住民で、主に生活向上プログラムに関わる女性たち。
実施内容	2009年1月23日、やっと現地のムザファラバード開発委員会より先述の職業訓練センターの完成と事業の開始を伝えるメールが届く。同センターの開所式には出席できなかったが、メールで感謝の意を伝えた。これでパキスタン地震に伴う支援事業は終了。

事業名（新）	ミャンマー（ビルマ）・サイクロン「ナルギス」救援プロジェクト
実施日時	2008年5月7日から
実施場所	首都ヤンゴンから100km離れたエラワディ管区モラミヤインジャン地区
受益対象者の範囲及び予定人数	上記地域住民
実施内容	サイクロン「ナルギス」の被害は、国際社会への発信の遅れと、ミャンマー軍事政権の他国からの支援を拒んで来たため甚大な被害となった。その後、国連の働きも影響し、一応の支援活動が続けられている。CODEは情報収集の結果、CODEの正会員である鶴飼卓医師が理事長を務める「HuMA（災害人道医療支援会）」を通して支援することとし、HuMAの活動を見守っていた。最終的にCODEの支援によって生活のライフラインである水不足を招いているエラワディ管区モラミヤインジャン地区での井戸掘りプロジェクトを支援することとなり、合計8基の井戸を掘る結果となった。井戸を提供することで同被災地の住民は大変喜んで下さったという報告を受けた。なお、CODE寺子屋という位置づけのもと、2009年3月19日CODEとHuMA共同でのミャンマーサイクロン支援報告会を行った。

事業名（新）	中国・四川大地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日から
実施場所	地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>ミャンマー(ビルマ)・サイクロン被害から10日後、中国・四川省を中心に巨大地震が襲い、甚大な被害をもたらした。地震発生時、CODEの元臨時スタッフが雲南省にいたこともあり、3日後には被災地に入りした。その後被災地の状況をレポートすると共に、耐震建築の必要性やボランティア活動の重要性など神戸の教訓を伝えながら、被災者への寄り添い活動を徹底して重ねてきた。最終的には綿陽市北川県香泉郷光明村での診療所+コミュニティセンター建設(7カ所)を内定した。2009年度から具体的に事業を進める。同時に周辺の村や隣県の被災地などで活動している現地の活動者と情報交換を続けてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 第1次派遣 5月15日～6月13日(吉椿) * 第2次派遣 7月1日～8月17日(吉椿) * 第3次派遣 9月8日～11月4日(吉椿、東条) * 第4次派遣 12月1日～2009年1月8日(吉椿) * 第5次派遣 2月21日～4月15日(吉椿) * 7月28日 北京でグ先生と懇談(村井、吉椿) * 9月26日～29日 被災地調査(村井)

*** 事業計画では、イラン、アルジェリアはまとめて継続とするという表現で、災害支援事業の最後に記しておく。**

* 【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	年間を通じて3~4回
実施場所	当センター会議室もしくは神戸市内の貸し会場
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など約60人(1回15人程度)
実施内容	CODEも会員になっている関西NGO協議会が行っている「NGO講座」に参加することで、これまで行ってきたNGO入門編を学ぶことにし、関係者にその旨を案内した。それ以外は、5月に四川大地震が発生したこともあって、余裕がなく開催できなかった。

事業名	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
実施日時	年間を通じて1回程度
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など10人
実施内容	中国四川地震、ミャンマーサイクロンなど大災害が相次ぎ、実施することができなかった。

事業名	スタッフのスキルアップ研修(スタッフは専従・非専従を問わない)
実施日時	随時
実施場所	原則国内
受益対象者の範囲及び予定人数	若干名
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> * 10月25日、日本赤十字とNHK主催で行われた国際シンポジウム「あの時できなかったこと～ミャンマー・中国の災害支援から」に参加(黒滝、村井) * 9月6日、ミャンマーサイクロン支援事業を実施しているHuMPの報告会に参加し、災害医療支援事業の概観について学んだ。(尾澤良平、村井雅清) * 2009年1月8日 JICA 防災分野協力指針報告および意見交換会に出席(小川奈々、黒瀧亜紀子、法化図智子、尾澤良平、村井雅清) * 2009年1月23日、ジャパンプラットフォーム関西報告会に参加(尾澤) * 2009年3月6日、第6回都市地震工学国際会議にエコ・プロワットさんが招かれていたので聴講(村井) * 2009年3月11日阪神・淡路大震災と四川大地震との事例比較セミナーに参加(村井)

事業名	ボランティアの日
実施日時	隔月 1 回
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	CODE と連携するグループえんのボランティアなどの応援を受け、CODE レターの発送活動など行ってきた。1 回最低 4 名～5 名のボランティアが集まる。

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002 年からの継続事業）
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて。
実施内容	<p>中国四川地震後には、翻訳 SOHO ボランティア N さんが、相当量の中国語によるマスコミ情報などを日本語に翻訳しニュースで流し続けた。また、ミャンマーサイクロンに関する被災地情報を翻訳 SOHO ボランティア K さんが翻訳し流し続けてきた。その他毎月最低 1 回は CODE 事務所に来てボランティアしている神戸大学生 O さんが翻訳をして下さった。その他例年のように今年も松蔭女子高校生による翻訳活動を行った。</p> <p>* 2009 年 2 月 19 日（場所：松蔭女子高校）</p>

「ネットワーク構築事業」

事業名	(関係機関からの受託事業) 神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月8日から、毎週火曜日。7月15日まで。(4月29日・5月6日は休講)
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	30人
実施内容	<p>CODE とのコラボレーション事業という位置づけで始まった神戸学院大学社会貢献ユニットへの講師派遣は、2008年度も下記のようなスケジュールと講師陣および内容で実施した。</p> <p><内容></p> <p>第1回(4/8) ガイダンス(浅野、村井)</p> <p>第2回(4/15) CODE海外災害援助市民センターが担う社会貢献(村井)</p> <p>第3回(4/22) 象徴的復興と回復力 —写真集「いやしの能登」を題材に—(村井)</p> <p>第4回(5/13) 中山間地域での災害復興から学ぶ(鈴木隆太)</p> <p>第5回(5/20) 阪神・淡路大震災から14年目の「いま」被災者は?(牧 秀一)</p> <p>第6回(5/27) 援助論と開発(藤野達也)</p> <p>第7回(6/3) 災害時における地域力(織田峰彦)</p> <p>第8回(6/10) 前期の振り返り(浅野、村井)</p> <p>第9回(6/17) 災害復興の鍵は、地域経済の自立 —国内外の災害現場より—(村井)</p> <p>第10回(6/24) ジェンダーの視点から考える減災サイクル(斉藤容子)</p> <p>第11回(7/1) 農業が担う持続可能な社会づくり(本野一郎)</p> <p>第12回(7/8) 次世代に語り継ぐ(村井)</p> <p>第13回(7/15) 前期・後期を振り返って(浅野、村井)</p> <p>* 6月17日 中国四川地震報告会(吉椿)</p> <p>* 11月15日 国際環境防災シンポジウム「社会貢献 そして いのち」 (村井、吉椿、東条、尾澤の4人参加)</p> <p>その他、随時同ユニット主催で毎月第3火曜日夜に開催している研究会に参加。</p>

事業名	(関係機関からの受託事業) JICA 兵庫および JICE からの委託事業による「留学生セミナー」開催。
実施日時	年1回、期間は8月21日から1週間
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	毎年公募による留学生が対象。10人から15人。
実施内容	JICA のこの事業は来年度から中止。今年度は移行期間として、これまでのデータや留学生のアンケートから人気のあるプログラムについては、今年度も実施することになり、CODE が選ばれた。

事業名	(関係機関からの受託事業)「アフガニスタン・カブール州シャモリ平原における農業開発と地域防災の相互補完促進事業」(JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)二年次)
実施日時	7月9日(水)～19日(土)
実施場所	主に兵庫県佐用町、補助で山梨県牧丘町倉科
受益対象者の範囲及び予定人数	アフガニスタンからの研修生7人
実施内容	JICAの平成20年度草の根技術協力事業(地域提案型)として実施。今年度は二年次。昨年同様、アフガニスタンから7名の研修生を招くが、内一人は女性省農業担当者を人選。実施場所は昨年同様、主に兵庫県佐用町で行い、補助として山梨県のぶどう農家、澤登農園で、40年前前から継続して行っている有機農業によるぶどう栽培を学んだ。 <研修日程案> 7月9日 関空着、JICA兵庫に宿泊 7月10日 山梨県に移動 7月11～14日 澤登農園にてぶどう有機栽培の実習と講義 7月15日 兵庫県佐用町へ移動 7月16～17日 佐用町農業関連施設見学と高校畜産科との交流学习 7月18日 2年次の振り返りと3年次の決意 7月19日 神戸市内見学、関空発 4月18日 上記研修のための打ち合わせ(山梨) 6月11日 同研修打ち合わせ(佐用町)

事業名	(関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加)
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> * 関西NGO協議会—正会員として加盟、総会5月10日出席 * 2008年5月22日 ぼたんの会・夜会に参画 * 2008年11月6日 「地震に負けない学校計画」国際防災シンポジウム(UNCRD兵庫主催) パネラーとして村井参加 * 2009年1月19日 UNCRD国際防災シンポジウム2009 パネラーとして村井参加 * TELLNet(世界語り継ぎ研究会)の定例会に参画 5月24日、8月28日、10月11日 * DRI主催、UNCRD兵庫が事務局を担う、「復興まちづくりの評価手法に関する共同研究会」に参加。(8月21日、12月1日) * 2009年1月12日 関西学院大学災害復興制度研究所フォーラム「どう果たすか国際貢献～国家・社会・文化の壁を超えて」パネリストとして 村井・吉椿 * 2009年1月17日 ぼたんの会「竹下景子“詩の朗読と音楽の夕べ”」参画 * 2009年1月18日 国際協力入門セミナー「私たちにもできる国際協力」 芹田代表理事 記念講演を行う。

事業名	(関係団体の主催する事業との連携) コープこうべ自然災害救援基金での報告会にスタッフ派遣。
実施日時	最低年1回
実施場所	コープこうべ生活文化部
受益対象者の範囲及び予定人数	会員はじめ不特定多数。
実施内容	コープこうべ2007年度に続いて2008年度も事業計画に「CODEとの連携」が掲げられていることもあり、積極的にこの種の報告会には参加する。 * ハート基金運営委員会で四川報告(吉椿) (2008年6月19日) * ハート基金拡大運営委員会で四川報告(村井、吉椿) (2008年8月27日) * コープこうべ役職員会議での四川報告(吉椿、村井) (2009年2月12日) * ハート基金(コープこうべ災害緊急支援基金)運営委員会で四川報告(村井) (2009年3月26日)

事業名	(関係団体の主催する事業との連携) ゆとり生活館 AMIS(1F)のNPO/NGO交流コーナーに参加
実施日時	年数回開催
実施場所	同会館1階
受益対象者の範囲及び予定人数	同会館利用者
実施内容	前年度同様積極的に協力する。 (内容) 年1回の運営委員会、年1回の発表会には参加する。

事業名	「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンへの参加
実施日時	随時(2005年9月から継続事業)
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	
実施内容	前年度同様、様々な機会販売を試みる。 販売数 23本

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名（新）	CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般。
実施内容	2008 年度から、これまで個別に掲げていた学習会事業を、「CODE 寺子屋学習会」として一括集約し、それぞれの学習会の成果をもとに、さらに調査・研究が必要となれば理事会で諮るとし、当面のテーマとして「協同組合勉強会」「予防防災についての学習」「マイクロファイナンスについての学習」などと挙げてきたが、実施できなかった。ただ、神戸学院大学浅野ゼミとCODEの共同報告会として、インドネシア・ジャワの「ウォータープロジェクト」の報告会を開催した。 (2009/2/12)

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	拡大目標として、賛助会員の20名増員を目指してきたが、達成しなかった。

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>CODE の主たる事業である救援プロジェクトについての報告会を随時開催してきた。報告会開催によって、市民による災害救援への一層の理解と、新たな支援者の獲得をはかってきた。また、災害救援全般や NGO についてなど講師派遣の依頼を受けた場合にスタッフ等を派遣し、普及活動に努めてきた。以下 2008 年度実施してきた所。</p> <p><防災士機構への講師派遣> (村井) * 6月20日 京都、7月4日 福井、7月26日 大阪、11月2日 金沢 12月5日 大阪</p> <p><名古屋・四川地震現地報告会> 6月16日 (吉椿)</p> <p><FM わいわいフォーラム「大震災を語り継ぐ」> 6月20日 (吉椿)</p> <p><チーム中越報告会> 6月27日 (村井、吉椿)</p> <p><神戸大学 RCUSS オープンゼミナール> 6月28日 (吉椿)</p> <p><震災語り合いサロン (人と防災未来センター)> 7月27日 (尾澤、東条)</p> <p><ピースフェスティバル 2008 四川地震パネル展示> 9月14日</p> <p><災害看護支援機構「復興と災害看護」> 10月18日 (村井)</p> <p><ひょうご防災リーダー講座> 11月15日 (村井)</p> <p><関西学院大学復興制度研究所フォーラム> 2009年1月13日 (村井、吉椿)</p> <p><国際留学生フォーラム> (新潟県長岡市) 2009年3月1日 (吉椿)</p>

事業名	(関係機関からの受託事業) 神戸女子大学、甲南女子大学、龍谷大学、関西学院大学への講師派遣委託
実施日時	下記の通り
実施場所	下記の通り
受益対象者の範囲及び予定人数	講義の受講生
実施内容	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> * 5月21日 神戸女子大学 講師 村井 * 7月30日 堺女性大学 講師 村井 * 8月20日 兵庫県立大学夏季講座 吉椿 * 10月7日 兵庫県立舞子高校 講師 村井 * 11月19日 龍谷大学 講師 村井 * 12月5日 関西学院大学 講師 村井 * 12月10日 甲南女子大学 講師 尾澤良平 * 2009年1月7日 甲南女子大学 講師 尾澤良平 * 2009年1月10日 堺女性センター 講師 尾澤良平 * 2009年1月15日 神戸市立楠高等学校 講師 村井 * 2009年1月24日 堺女性センター 講師 尾澤良平 * 2009年2月4日 神戸市立楠高等学校 講師 村井 * 2009年2月26日 兵庫県立大学地域ケア開発研究所 講師 村井 * 2009年3月14日 日本赤十字看護大学・防災ボランティア育成セミナー 講師 吉椿雅道

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年4回発行 インターネットは随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地 700人/団体 インターネットは不特定多数
実施内容	CODEの機関誌である「CODE レター」を計3回(1回約700部)発行した。平行して、ホームページやメールリストを利用したインターネットによる情報発信も行なってきた。CODEのメールリストは多くの方に見て頂いていることもあって、今年度もメールリストに必要な情報を流すことに努力してきた。あわせて、2009年になってTさんがボランティアに来て下さるようになり、HPを改善できた。また、新聞、テレビ、雑誌、ラジオなどのメディアに対して積極的に広報を行なってきた。

事業名	冊子及び書籍等の発行及び支援グッズの販売
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>また、昨年度も実行できなかったが下記の 2 点について財政的に可能であれば、“CODE ブックレット”のようなイメージを想定して発行したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国際的な人道活動と CODE」CODE 設立 2 周年記念での芹田代表理事による講演録 ・ 「予防防災」2005 年度寺子屋防災での室崎副代表理事における講演録 <p>書籍や支援グッズの販売実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CODE T シャツ 14 枚 ・ 「災害救援」 18 冊

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE エイド設立のための情報収集および研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	約 5 人
実施内容	本プロジェクトは、発足当初以来検討されているが、CODE を財政的に支えるファンドづくりは難しい。しかしながら阪神・淡路大震災をきっかけに生まれた災害救援 NGO として、期待されているところは大きい。昨今、市民ファンドに関連する動きは多彩になってきた傾向もあるだけに、「CODE エイド」誕生の可能性も不可能ではない。もう少し機が熟するのを待って再議論をすることにする。

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	本奨学金制度は、4 年目に入る。1 年目の該当者は斉藤容子であるが、当人が留学する直前に開いた歓送会終了後、その時集まった資金 53 万円を全額本人に奨学金として手渡す。以後該当者の提案がなかったため実施して来なかった。なお初年度の斉藤容子が随時返済しており、そのため一端ゼロになった、基金も 55,000 円となっている。

その他

- * 2008 年 7 月 20 日～24 日 サラゴサ国際博覧会にシンポジストとして参加。(村井)
- * 2008 年 11 月 5 日 読売国際協力賞授賞式(東京・帝国ホテル)出席者 約 250 人